

働いてよし&暮らしてよし むらやまの企業

## 株式会社高田地研

寒河江市にある株式会社高田地研の若手社員、石澤瑞穂さん取材しました！

石澤さんは、都留文科大学文学部比較文化学科を卒業した後、2021年に入社しました。  
現在は、技術管理部で勤務しています。

### (1) 仕事内容編

——現在、どのようなお仕事をしていますか。



私は地質調査という仕事をしています。ちょっと分かりにくいと思うので、大まかに説明すると、大きな建物を建てる際に、下の地盤がその建物に耐えられるかどうかを調べることが主な仕事です。調査内容を報告書にして、現場で作業されている方に証拠として提出することが、技術管理部の共通の仕事です。

組織の話をする、会社の部署は、大きく調査部門と工事部門の二つに分かれています。工事部門では、井戸を掘る「さく井(せい)」という仕事があります。自社の機械を使い、お客様の要望に合わせ、「何mぐらいの井戸を掘ってほしい。」という要望にお応えしています。さく井(せい)の目的は、雪を融かすための配管を引いたり、温泉を掘ったりと、様々なものがあります。

また、「地下水を工場の洗浄に利用したいので汲み上げたい。」という声にお応えして、「地盤に合わせて何m掘った方がいいですよ。」という提案をして、掘ることが工事部門の仕事です。

私が所属しているのは、もうひとつの調査部門における技術管理部です。工事現場では、目的の橋や道路を直す際に、説明書というものがあり、この説明書に従って作られているのか確認する義務があります。例えば市町村で行う工事では、市町村が工事の担当に説明書の提出を求めるのですが、工事の担当は工事をメインとしているため、調査や検査は別のところに委託していることが結構多いです。

このくらい地面が固ければ大丈夫ですよという証拠を出すことで安心して工事を進められるので、その部分を補うのが私たちの仕事です。私たちが現場まで行って測ることもあります。



——大学の専攻とは異なる分野のお仕事かと思うのですが、大学での経験はどのように活かされていますか。

この業界は、理工学、もっと言えば土木工学が専門になります。工事はまた別になってくるとは思いますが。特に調査については、重さの計算を行い、証明できることが必要なのですが……私は文系でして。全く関係がないところから来たので、最初は本当におっかなびっくりで、自信がなかったですね。

仕事をしていくうちに関連があると感じたのは、大学のゼミで論文を一生懸命していたことです。報告書を出す時は、結果の他、理由や根拠を書く必要があります。その構造が論文とほとんど同じなので、当時一生懸命していて良かったと思いました。また、学生時代に留学に行くなど、自分が「やってみよう」と思ったことをとりあえず時間があるときにチャレンジしてみた、というのは大きかったと思います。

## (2) 職場編

——株式会社高田地研に就職を決めたきっかけは何ですか。



私が就職活動をしていた 2020 年 3 月は、ちょうどコロナがはやり始めた頃でした。2019 年度までは積極的に採用している会社がたくさんあったのですが、コロナ禍で少し後ろ向きになっている企業様が多くあり、どうしようかなと思っていました。就活する際に大事なことは何なのかを考えた際に、自分がずっと働いていくところなので、自分の足で行って、会社を見てみたいという気持ちがありました。

高田地研は、当時は全然知らなかったのですが、何回もインターンを受け入れてもらいました。コロナ禍なのでちょっと社内には……という会社も多かった中で、温かく対応してもらいました。また、上司の仕事ぶりが「こんな風に仕事してみたい！」という仕事ぶりで、自分もできるかなと思って就職しました。でも現実は厳しかったです（笑）。

——この会社に入って良かったと思うのはどのような時ですか？

自分の仕事が「周囲の人のためになっている」と思ったときにやりがいを感じます。

学生の頃は、時間はあってもお金がありませんでしたが、やりがいを感じながら働いて得たお給料で、学生時代にできなかった親孝行や、友達と遊ぶことなど、充実した時間が増えています。

上司の方が根気強く指導してくれるおかげもあり、お世話になった人たちのためにもっと頑張ろう、と思えるのは幸せだなと思います。

——異なった専門分野から入社した場合には、研修はどのようになるのでしょうか。



(名和さん)

入社後すぐに、社会人としての心得を学んでいただくために外部の新入社員セミナーに参加していただきます。その後、工事部門、調査部門の業務内容を学ぶ研修が各部長を講師として行われます。弊社の業務内容は、専門的な知識を必要とするものも多いので定期的に勉強会も行われ、部署を超えて社員同士の交流の場としてもいい機会になっています。

その他にも、専門性が高く業務に必要な技術や知識を学ぶ社内セミナーを、社員主体で、時には取引先様のご協力を得て開催しています。例えば、4t ユニック(トラック)の触り方、測量器の使い方、CAD の使用方法などです。即戦力を求めるのではなく学びながら知識を蓄積し、それを仕事として役に立てるといふ人材育成には力を入れております。

——新入社員セミナーが終わった後は、実際に部門に入って行って実地で学びながら、という感じなのでしょうか。その先はどのように実地に移るのでしょうか。

(石澤さん)

個人差はありますが、だいたい3か月くらいは補助役としての業務がメインですね。

補助期間で下地をつくって、できるところから担当していく形です。具体的に担当するものが決まっているわけではなく、その時の業務状況によります。

(名和さん)

石澤さんが所属している調査部門は、現場があって報告書をまとめてお客様に提出、という流れがあるのですが、試験の種類によって様々な工程があります。地質調査であれば調査ボーリングをして、その結果を柱状図におこし、報告書にまとめます。この流れを自分一人でこなしていくことは、最初は難しいです。ですので、上司に付いて一連の流れを覚え、現場の調整や報告書の作成の仕方などを学んで、本人のスキルに合わせて独り立ち出来るようになっていきます。

——上司の裁量が大きいのでしょうか。

(名和さん)

上司の裁量もありますが、本人の主体性、積極性も大きいと思います。

実際に石澤さんが「やってみたいですよ」と声を掛けて、仕事を任せてもらっている様子も見えています。上司が「この仕事任せてもいいのかな」と迷ったとき、声を掛けてもらえると「よし、任せてみよう」と判断することもあると思うので、その分どんどん経験を積むことができ、仕事を覚え、スキルアップを進められると思います。

——上司の方とどのような関係を築けていると感じますか。

(石澤さん)

自分の仕事を頑張ることが信頼につながるかな……毎日一緒にいるので、形容するのが難しいですね(笑)。

(名和さん)

弊社では「ラインワークス」という社内 SNS を使っています。LINE のビジネス版なのですが、上司が外出している時に、些細なことだけど今電話してもいいかな、とか、相談したいけど今日戻りが遅いのかな、とか、そんな迷いがなくなるツールですね。報告漏れも少なくなり、気軽に連絡が取れますし、既読していることも分かるので、総務部としてもとても助かっています。石澤さんの上司とは、ね(笑)、友達みたいな感覚で(笑)。

(石澤さん)

そうですね(笑)。自分が疑問に思った時に、「ここはちょっとわからないです」と素直に言える関係が大事だと思います。ちゃんとスムーズに仕事をするために必要なことだと思うので、できるだけ言うように心がけていますね。だから風通しが良いと感じます。

(名和さん)

社長とも距離が近いので、すれ違った時に「最近どう？」と声をかけて下さることもあります。自分の意見を聴いてくれたりする場面もあるので、社風的にはアットホームというか、家族的な面もありますね。

(石澤さん)

上司も忙しいので、一生懸命自分の仕事をして「ここまでやってどうですか」というように、相手に負担を掛けないというのも考えて仕事をするとういのがいいのかな、ということ学びました。

——福利厚生面ではどのような特徴がありますか。

(石澤さん)

半年に一回は懇親会がありますね。コロナ禍が長引いたのでまだ一度しか参加したことはないのですが……社員の負担はゼロなのでうれしいですね(笑)

(名和さん)

7月に懇親会、12月に忘年会という形で社員同士の交流を図っています。コロナ前は2年おきぐらいで社員旅行にも行っていました。ゴールデンウィークやお盆休み、年末年始等の休暇は充実していると思います。年間休日としては、今年は105日ありますが、石澤さんは休日多く感じる？ 少なく感じる？

(石澤さん)

休日は……多くはないですね。

(名和さん)

少ないってこと(笑)?

(石澤さん)

いや、少ないというか、土曜も営業日があるので、その点では多くはないのかなという風に思います。ただ、基本的なことですが有給休暇を取りやすい環境もあり、最近は旅行に行くことも増えました。仕事と周り相談してできるようになってきたかなと思います。他に、資格を取得すると手当が出たり、学習のサポートをしてもらえたりするのはありがたいです。

——**具体的にどのようなサポートがあるのですか。**

(石澤さん)

資格にも様々なものがありますが、業務上必要な資格は月に 1 回社内講習会を開いてもらっています。また、参考書代や資格取得のために講座に参加した場合には、合格した際に費用を会社で負担してくれます。

(名和さん)

自分で学んで取得いただく資格もありますが、種類によっては、学校に通う費用を全て負担する資格もあります。合格すると受験料も全て会社で負担するなど、資格取得やスキルアップのためのサポートをしていますね。

——**例えばどのような資格が必要になるのでしょうか。**

(石澤さん)

私が今目指しているのは、技術士という資格です。実務経験を重ねて受けられるので、合格までの道のりは遠いです。また、去年は測量士補に合格したので、測量士にもチャレンジしたいと思っています。

——**御社はこういった人におすすめですか？**

(石澤さん)

試験から報告書の作成、お客様への対応までをひとりで担当する、というように業務内容が幅広いので、ひとつのことをじっくりやるというよりは、色々なことを経験したい人におすすめかな、と思います。土を運ぶことがあるので、体力も必要ですね。それから、現場に出かけるために運転する時間が長くなるので、運転が好きな人にも向いていると思います。

——インターンシップのお話が出ていましたが、インターンシップの特徴や募集の方法にはどのようなものがありますか。

(名和さん)

インターンシップの内容としては、土質試験を体験していただくことが主となります。簡単に言うと土を調べる試験で、土をふるい分けたり、土をつき固めたり、といった作業を弊社の試験室で体験していただきます。また、自分が働く姿をよりイメージしていただけるように、実際の現場見学もしていただいています。真夏日にずっと暑い中作業できるのかなとか、真冬に寒い中作業できるかな、などを知っていただくことが出来ると思っています。動いている現場なので、先輩社員の様子も見られて弊社の雰囲気も伝わりやすいのかなと思います。

石澤さんもインターンシップには何回も来てくれました。女性ということもあり、ついていけるのか、自分でも大丈夫なのか、という話をしてくれていました。彼女の希望もありインターンシップを1日単位で数日に分けて行い、何度も足を運んでくれました。

募集する層としては、新卒の方をメインにしています。募集方法についてはマイナビページや、弊社の SNS (インスタグラム、ツイッター、Facebook) で案内しています。また、社員の出身大学の研究室に向けて企業説明会を行うことなどもしております。

——山形県外の出身割合や平均勤続年数など教えて下さい。

(名和さん)

社員の平均の勤続年数は 15.3 年です。平均年齢は 40.2 歳ですね。ベテラン社員も多いのですが、ありがたいことに直近 3 年間で 11 名もの新卒の方が入社してくれて、若い方が増えています。県外出身の方は 50 名中 4 名です。

### (3) ある日の過ごし方編

#### ● 8:00 【出社、土質試験等の業務開始】

出社後、勤務前に会社の自分の持ち場を清掃します。



試験の手順には決まった規格がありますので、参考書を参照しつつ不明な点は上司や先輩に確認しながら進めます。基本的に一つの案件を一人が担当するので、最初はフォローしていただきながら取り組みます。手順や注意点を体で覚えるまでが大変でした。

#### ● 12:00 【お昼休憩】

自分の席で食べます。以前は実家から通っており、お弁当を持たせてもらっていましたが、最近一人暮らしを始めて以来、お弁当を買ったり外食したりすることが増えました。お弁当を自分で作ってみたいですが、たまに外食するのも楽しみです。



#### ● 13:00 【データ入力／報告書作成】

担当中の試験について、試験したデータを入力して結果を求め、先輩や上司のものを参考に報告書を作成します。試験の目的や概要については、繰り返し作成するうちに余裕をもった作成ができるようになってきました。

#### ● 16:00 【お客様に連絡／報告】

試験の速報をお客様に報告します。工事現場では作業期限が決まっているお客様が多いため、報告書にまとめる前に成績書をメールで送ったり口頭で結果を伝えたりする場合があります。

#### ● 16:30 【部署での報告】

現場で作業する方々の帰社後、担当している案件について簡単に進捗報告を行います。

#### ● 17:00 【退勤】

退勤後は、資格取得のために学習したり好きな音楽を聴いたりします。

## (4) むらやまでの暮らし編

——村山地域で就職を決めた理由は何でしょうか。

大学で山形を離れて山梨県へ行ったときには、地元に戻るつもりはありませんでした。ですが、海外に留学へ行ったときに地元の良さを感じて、今まで育ててもらった恩返しがしたいと思うようになりました。そして、勉強しながら頑張れそうな村山地域の会社を選びました。自分が生まれ育ったところなので、やっぱり生活がしやすいです。



——具体的にここがいいな、と思うところがありますか。

ご飯がおいしいことです(笑)。実家が農家なのでやっぱりお米がおいしくて(笑)。それから温泉が近いのはいいですね。中山町に「ゆらら」という温泉がありまして、そこに小さい頃から行ってたこともあってよく行きます。

私は山が好きなので、月山には毎年登りますね。自然が多くて、家族と過ごせて、そういう時間も大事にできるのは良いことだと思います。

——仕事が終わって帰宅した後やお休みの日などは、どんな風に過ごしていますか。

音楽が大好きなので CD を借りて家で聴いたり、友達と聴いたりして楽しむのが多いです。あとはストレス発散にカラオケに行ったりもします。

———**どういう音楽を聴くのですか。**

星野源が大好きで、あとはギターで弾き語りする人の曲も好きなので、あいみょんやbacknumber もよく聴きますね。

———**カラオケでも今挙げたアーティストの歌を歌うのですか。**

そうですね、聴くと歌わずにはいられなくなるので(笑)。

———**山形で生活していて不便に感じたことはありますか。**

(石澤さん)

私の実家の周りには何もなくて、最寄駅まで4 kmあるんですよ。そこまで自転車で行かないきゃいけないと思うと気力がなくて(笑)。そういった交通の便はよくないと思います。

(名和さん)

冬は特に車がないと大変ですね。路面が凍ったり、雪で窓が真っ白になったりして危険なので、気を付けて運転することが大切ですね。ただ、弊社の駐車場は消融雪設備を施工しているので、雪はきの必要がありません。地下水熱を利用した消融雪設備を施工することは工事部門での主な業務のひとつですが、弊社の駐車場では敷地にある温泉水を利用しています。コンクリートの下に敷設したパイプに温泉水を流し、その熱を利用して降ってきた雪を融かす仕組みです。朝会社に来て除雪をする必要がない、というのは山形の企業では大きな魅力の一つだと思います。

———**駐車場の融雪も自社の技術を使って、ということですね！**

(名和さん)

その通りです。また、その敷地内の温泉をつかって、福利厚生として社員やその家族が利用できる保養施設があります。シャワー室もあるので、夏現場から帰ってきた若い社員さんたちとかがよく使っていますね。

## (5) まとめ編

——仕事をしていく中で、今後の目標はありますか。10年後にどうなっていたいか、というような人物像はありますか。

自分一人で担当する業務が中心になってくるので、より効率的にこなせるようになりたいです。これまで、自分の都合でお客さまをお待たせしてしまったこともありました。タイムパフォーマンスの高い、品質の良い報告書をお届けできるように頑張りたいです。あとはプライベートも充実させていきたいです。

10年後は先ほど挙げた資格を取り、上司のように働けるようにと考えています。

——女性が活躍できる職場づくりについて教えてください。

(名和さん)

今年から女性2名が管理職となり、新体制がスタートしました。部下の教育、モチベーションアップ方法などに関する研修も会社で受講させてもらいました。管理職というと、責任を持ち、部下を育てる立場であることはもちろん、会社をより良くするためにも目標に向かい考えて動く必要があります。

以前から女性社員の意見も大切にしてくれる環境ではありましたが、職位や評価に反映される仕組みも構築され、男女問わずキャリアアップを目指せる会社だと思います。

——育児休暇などはどうでしょうか。

(名和さん)

育児休暇の制度も整えています。2年前に産休・育休をとった女性社員が1年後に復職し、現在も活躍しています。現在は対象の方はいませんが、男性の育休も推進しています。育休の取得は難しい場合には、特別休暇も設けています。

また、お子さんのいる方には男女問わず毎月子ども手当を支給しております。

工場見学でも、ごみになるものを極力減らそうという工夫がいたるところにあり、SDGsが叫ばれる現代に適応している会社であることも分かりました。

——最後に、これから就活する学生へ向けて、アドバイスをお願いします。

自分も就職活動を経験しましたが、就活も就職もある程度やってみないとわかりません。その時に、自分のこだわりを考えることで、どういう仕事がしたいのか、具体的に見えてくると思います。自分と対話する時間だと思って、焦らずに周りの人の力も借りながら取り組んでほしいです。

——ありがとうございました！

インタビューを通して社員同士のコミュニケーションを大切にされている会社だと感じました。わからない点はすぐに聞ける環境づくりが行われており、また社員の声に耳を傾けその意見を尊重する風通しの良さもあり、社員の皆さんがチャレンジ精神を持って仕事に取り組める活気のある職場に繋がっていると考えました。また今年は女性幹部が2名誕生したと伺い、女性が長く働くことのできる職場づくりに力を入れている点も印象的でした。

【インタビューア：山形大学地域教育文化学部 佐藤 俊、人文社会科学部 山貝翠来、高橋希実】

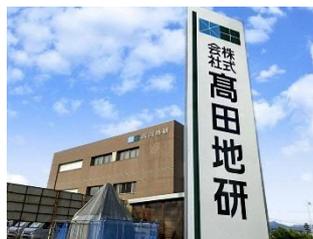
## 株式会社高田地研

---

【掘れば掘るほど、未来が湧き出る。】

私たちは、1945 年創業し地域に根差した信頼ある企業として実績を重ねてきました。水道・農業・工業用・災害用等の各水源及び、消融雪の熱エネルギーとしても利用できる地下水を汲み上げる井戸掘削工事、構造物基礎の地質調査、土壌汚染調査、地すべり対策工事などを通じ、広く社会に貢献する土と水の総合コンサルタント企業として事業を行っています。

☆ユースエール企業認定・健康経営優良法人 2023



- ・所在地 山形県寒河江市本楯三丁目 160 番地
  - ・設立 昭和 29 年 9 月
  - ・従業員数 50 名（男性 39 名、女性 11 名）
  - ・事業内容 融雪工事・消雪工事・さく井工事 など
  - ・URL <https://www.takada-chiken.co.jp>
-